

職業的アセスメントの内容に関する研究 Intake Assessment and Outcome Evaluation (IAOE)の日本語版の開発

- 研究代表者 前原和明（秋田大学）
・研究分担者 西尾香織（帝京平成大学）
・研究分担者 八重田淳（筑波大学）

研究要旨

職業リハビリテーションにおいてアセスメントは非常に重要な支援プロセスの一つである。その一方で、アセスメントに関しては、その実施のためのマンパワーの不足、知識及びスキルの不足などの課題もある。実施促進に向けた一つの視点として、米国のアセスメントツールである Intake Assessment and Outcome Evaluation (IAOE)の日本語版の開発を行った。6つの段階に基づいて、日本語版を作成した。また、作成においては、米国と日本の間の社会資源、文化などを考慮した。IAOE-Jは、単なる状態把握に留まらず、ニーズに基づいた支援につなげていくための支援者の視点整理に寄与するための工夫が凝らされている。職業的アセスメントに基づく多機関連携に向けて有効な一つの支援ツールになると考えられた。今後は、IAOE-Jの信頼性及び妥当性を検証していく予定である。

A. 研究目的

職業リハビリテーションにおいて、アセスメントは非常に重要な支援のプロセスの一つである。Rubin et al. (2016)は、就労支援のプロセスは、評価、プランニング、支援、配置の4つの時期から構成されると述べている。この内の評価は、障害者本人が現在及び可能性としての職業的な力や興味の幅を理解し、そのような力や興味に見合った可能性ある仕事、そのために必要なサービスや支援について知ることができるように支援することが必要であると指摘している。Roessler & Rubin (1992)は、評価の最終目標はクライアントである障害者と支援サー

ビスに関する情報を統合し、最も実現可能な職業的目標を明確化することにあると述べている。Strauser et al. (2014)は、職業的なアセスメントは、障害者のキャリア発達と雇用の促進のための重要なサービスの一つであり、目標設定や成果の判断をするために的確に実施される必要があるとして指摘している。

その一方で、日本においてはアセスメントに関する課題が存在している。前原(2020)は、アセスメントが十分に実施されていない実態を示し、その理由としてマンパワーの不足やアセスメントに対する知識やスキルの不足を報告している。そして、前原ら

(2021)は、日本でのアセスメントの実施促進に向けた課題の一つとして、アセスメントツールの開発を上げている。実施促進のためのシステム作りの必要性和共に(前原ら, 2021)、これを支えるこの種の有用なツールの必要性が挙げられる。就労支援の質の向上につながると期待される。

Intake Assessment and Outcome Evaluation (IAOE)は、米国のDepartment of Rehabilitation and Disability Studies, Southern UniversityのMadan Kundu博士らが再組織化したアセスメントツールである(Kundu et al.,2005)。上記に、IAOEは、Kundu博士らが再組織化したと記述したが、これはGeist & Calzaretta (1982)が最初に記載している。この最初の記載から後に、Madan Kundu博士らによるフィールドテストや信頼性の確認が行われて作成された。

SAPは次の目的をもって開発されたモデルである。一つ目の目的は、このモデルを用いることで、支援者がクライアントの支援において憶測で支援を進めることを減らし、整理され、俯瞰的に支援することを助けることである。二つ目の目的は、クライアントのインテークや支援段階をきちんと把握することを助けることである。このような目的の下で、円滑な目的達成に向けてIAOEが整備されている。IAOEは、その項目の詳細は結果における日本語版の内容を見ていただくこととするが、クライアント、健康、教育、家族、社会、雇用、配置、基金の計8つのサブシステムから構成される。このIAOEの活用の利点は以下の通りである。(a)インテーク場面において効率的に利用者のニーズを把握できる、(b)個別の支援計画を策定するための情報を収集することを補うこと

ができる、(c)利用者の活用した支援サービスの質について客観的に評価できる、(d)専門家の提供した支援サービスの質について客観的に評価できる、(e)職業リハビリテーションの支援に対する説明責任を果たすことができる、(f)支援の終結に向けた判断に活用できる、(g)各組織が求められる支援サービスの内容について評価することができる、(h)経済的な支援などの根拠として用いることが期待できる(Kundu et al.,2005)。

現在、日本の職リハにおいて、アセスメントツールは少ない。日本で開発されたものの他に(就労準備支援チェックリスト)、海外の翻訳(BWAP)から作られたものが確認できる。いずれも、測定するスキルの程度を測定するものである。そのため、上記のメリットにかなうものではない。日本の現状を考えると、測定するものは、支援者間の共通理解を促すかもしれないが、実際の支援、特に多機関連携に寄与するような視点は少なく、実際の実践に役立つのは難しいであろう。その意味で、IAOEのメリットのような機能を持つものはない。そこで、本稿では、このIAOE日本版の開発の経過を報告するとともに、内容面について紹介する。

B. 調査方法

1. 日本語版作成のステップ

Beaton, D.E. & Guillemin F. (2000)のガイドラインを参考にしつつ、表1の各ステップで日本語版を作成した。

表1 日本語版の作成ステップ

段階	内容
第1段階	研究者らによる翻訳
第2段階	研究者らによる翻訳のチェックと統合
第3段階	バックトランスレーション
第4段階	原著者との協議
第5段階	研究者らによる最終協議
第6段階	日本語版の確定

2. 各段階における作業の詳細

作業の手続きの詳細は、以下の通りである。

まず、日本語を母国語とする3名の研究者らが原文を日本語に協議しつつ翻訳した(第1段階)。次に研究者らが翻訳を確認及び統合し暫定版を作成した(第2段階)。この暫定版を英文校正業者に依頼して逆翻訳した(第3段階)。次に、この逆翻訳内容を共同研究者でもある原著者と共有し、原文との整合性などのチェックをした(第4段階)。原著者からの指摘等を踏まえての修正を行うとともに、日本語版の疎通性などを必要に応じて職業リハビリテーション領域の実践者に確認した(第5段階)。そして、最終的に日本語版として確定した(第6段階)。

C. 結果

1. IAOE-J

IAOE-Jの日本語版は別添資料として示した。なお、IAOE-Jは、実践及び研究に活用する上で制限を設けないが、使用する場合同じについては本論文を引用して明示することとする。

2. 社会資源の違い

原文のIAOEは、米国の支援システムに基づいて作成された。そのため、質問文を読み、回答する支援者が十分に意味を理解できない項目も多い。そのため、IAOE-Jにおいては、質問文の理解をし易いための配慮をし、実践現場において適切な活用ができるようにした。

翻訳に際しては、地域障害者職業センターや障害者就業・生活支援センターといった日本の職業リハビリテーション機関の支援内容などを明示することで、回答者が回答しやすいように配慮した。Yaeda et al.

(2013)によると、日本の支援者が十分な職業リハビリに関する知識及びスキルがないことが指摘されている。そのため、原文のIAOEでは、単語のみでの質問文を提示していたが、IAOE-Jでは単語の質問文を理解することを補うための一文を例として書いた。例：「4 漢字や計算などの能力テストの実施：漢字検定や計算能力等の学力検査の実施」、「1 企業の組織体制に関連する課題に対する支援：就職をする会社内の意思伝達のあり方や組織風土に対する支援の必要性」。

3. 文化差

原文のIAOEにおいては、日本においてあまり意識されることが少ない、文化及び人種、宗教などに関する文化に関する項目がある。Yaeda et al. (2013)では、この文化及び人種、宗教などに関する知識及びスキルについては、なじみにくい項目であるがゆえにそもそも所持状況が低いとの結果を報告している。日本の将来的な状況を考慮すると、言語、文化、人種、宗教などに関する

ることもアセスメントすることが求められることも予想される。今回の日本語版においては、これらに関する項目を削除することも検討したが、該当しない場合については「支援の必要性が全くなし」との選択をすることもできることから項目として残すこととした。

D. 考察

日本においては、評価の重要性が主張される一方で、アセスメントを補助するためのツールやシステムなどが不足している。この IAOE-J は、今後のアセスメントの実施促進のための一つの有効なツールとして期待できる。特に、IAOE-J は、クライアントのニーズを的確に把握し、それを個別の支援計画に役立てることを意識したインテーク場面で有効に活用できるツールである。鈴木・前原 (2021) は、インテーク面談の機能を分類することで、その機能を強化でき、アセスメント希望者のニーズに応じた支援につながったとの実践を報告している。このようにインテークの機能を強化することは、アセスメントの実施促進に寄与することが期待できる。

E. 結論

この IAOE-J は、支援計画の策定にも寄与することが考えられる。そのため、単に情報把握のためのツールとしてではなく、アセスメントされたニーズをどのように支援するのかや、そのための連携をどうするのかといった多機関連携に基づく支援へとつなげていくためのツールとなることが期待される。現段階では、IAOE-J はその実践における有用性などについて十分に検討されて

いる段階にはない。今後は、職リハの実践者を対象とした信頼性と妥当性の検討を実施する予定である。継続する研究を通して、この IAOE-J の実践における導入が進んでいくことが期待される。

F. 引用文献

文献

- Beaton, D. E. & Bombardier, C., Guillemin, F. & Ferraz, M. B. (2000) Guidelines for the process of cross-cultural adaptation of self-report measures. *Spine*, 25, 3186-3191.
- Geist, C. S. & Calzaretta, W. A. (1982) *Placement handbook for counseling disabled persons*. Charles c Thomas publisher, Springfield, Illinois.
- Kundu, M. M., Schiro-Geist, C. & Dutta, A. (2005) A systems approach to placement: A holistic technique. *Journal of Forensic Vocational Analysis*, 8, 21-30.
- 前原和明 (2020) : 障害者就業・生活支援センターにおける知的障害者の就労アセスメントの実施状況. *Total Rehabilitation Research*, VOL.8 29-38.
- Maebara, K. & Nawaoka, K. (2021) A clarification of key discussion points for promoting the implementation of vocational assessment in employment-related disability welfare service agencies. *General Human Science*, 7, 35-52.
- Maebara, K., Nawaoka, K., Nishio, K., Goto, Y. & Yaeda, J. (2021) An examination of guidelines to promote the implementation of vocational

- assessment in employment-related disability welfare service agencies. *Memoirs of the Faculty of Education, Akita University. Educational Sciences*, 76, 71-79.
- Roessler, R. T. & Rubin, S. E. (Eds.) (1992) *Case management and rehabilitation counseling*, 2nd ed. pro-ed Texas.
- Rubin, S. E., Roessler, R. T. & Rumrill, P. D. (Eds.) (2016) *Foundations of the vocational rehabilitation process*, 7th ed. pro-ed. Texas.
- Strauser, D. R., Chan, F., Wang, M., Wu, M. & Rahimi, M. (2014) *Vocational evaluation in rehabilitation*. (Strauser, D. R. (editor) *Career development, employment, and disability in rehabilitation from theory to practice*. Springer Publishing Company, New York.
- 鈴木大樹・前原和明 (2021) 障害者の社会参加に向けた移行支援の取組みの現状と課題：江戸川区立障害者就労支援センターの取組みから。秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要, 43, 89-95
- Yaeda, J., Kundu, M. & Nishimura, S. (2013) Self-perceived knowledge and skills of job coaches in japan. *Work*, 45, 279-285.
- G. 研究発表**
- 1. 論文発表**
- Kazuaki MAEBARA, Jun YAEDA (2021) An Intake Assessment Tool for Vocational Rehabilitation: Development of a Japanese Version of Intake Assessment and Outcome Evaluation (IAOE). *Memoirs of the Faculty of Education, Akita University. Educational science*, 77, 131-136
- 2. 学会発表**
- なし
- H. 知的財産権の出願**
- なし